2　問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

先生方が日々の授業を振り返る際や校内研修の資料として活用できるように、**「授業づくりのポイント」**を示しました。詳しい内容については、本冊子の該当ページをご覧ください。
また、自己の重点の欄は、日々の授業や校内研修等で重点を定めて取り組む際にご活用ください。

＜授業づくりのポイント＞

	項　目	ポ　イ　ン　ト	該　当 ページ	自己の 重　点
ポイント1	単元のねらい	学習指導要領を基に単元のねらいをとらえ、系統性や関連性等のある単元を構想する。	Ｐ．３ Ｐ．４	
	実　態　把　握	普段の授業や各種調査から単元展開や授業に生かせる実態把握を行う。		
	評　価　計　画	目指す子どもの姿を具体的にとらえ、次の指導に生かせる評価計画を立てる。		
ポイント2	整　　合　　性	単元構想を踏まえ、ねらいからまとめまでの整合性を図る。	Ｐ．５	
	手　　立　　て	子どもが自ら解決に向けて取り組むための具体的な手立てを講じる。	Ｐ．６	
	板　書　計　画	子どもの思考の流れを想定した構造的な板書にする。	Ｐ．７ Ｐ．８	
ポイント3	課　題　設　定	子どもにとって考える必然性があり、解決への意欲が高まる学習課題を設定する。	Ｐ．９	
	見　　通　　し	子どもが自ら解決の見通しをもてるように、めあてを把握させ解決の方法や調べる視点等をもたせる。	Ｐ．10	
ポイント4	発　　問	考える視点や方法、手がかりを一人一人にもたせるとともに、思考を促す発問を行う。	Ｐ．11 Ｐ．12	
	見　　取　　り	適切に子どもの学習状況等を見取り、本時における次の授業展開に生かす。		
	個に応じた支援	一人一人の学習状況を把握し、個に応じた適切な支援の手立てを講じる。		
ポイント5	学　び　合　い	思考の共有と吟味を通して、子どもが新たな考えをつくり出せるような学び合いをさせる。	Ｐ．13	
	コーディネート	学び合いの目的を踏まえたコーディネートを工夫する。	Ｐ．14	
ポイント6	課題との整合性	課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめる。	Ｐ．15 Ｐ．16	
	学習内容の定着	学習内容の再生の場やねらいに合った適用問題を設定し、学習内容の定着を図る。		
	意　欲　付　け	自己の変容や成長を自覚させることにより、充実感や満足感を味わわせ、次の学習への意欲を高める。		